

## つづけ読み、ならべ読み年表

西川 祐子

以下の年表は2007年6月23日、京都文教大学人間学研究所主催の公開シンポジウム「生活綴り方から『戦後』を考える」を準備するために作成し、当日会場で資料として配布した年表に加筆したものである。報告者である佐藤藤三郎、澤井余志郎両氏の著作と『紡績女子工員生活記録集』（日本図書センター、2002年）、『「四日市公害」市民運動記録集』（日本図書センター、2007年）および『紡績女子工員生活記録集』Ⅰ、Ⅱ（日本図書センター、2002年、2008年予定）の辻智子作成年譜、などを参照している。佐藤藤三郎関連年表、澤井余志郎関連年表の各項目の記述の主語はそれぞれ原則として佐藤、澤井氏である。

関連年表はそれぞれ、シンポジウムにおける佐藤藤三郎報告「『山びこ学校』の地で『戦後』農業を生きる」、澤井余志郎報告「紡績工場から石油コンビナートまでを綴る」とともに「つづけ読み」をしていただきたい。そのうえで、「主な社会変動」年表とともに3つの年表の「ならべ読み」をするならば、農業地帯からの報告と工業地帯からの報告が交差して、工業地帯に発生する水質汚染、空気汚染など公害問題と、農村の過疎化と農業就業者の高齢化による農業の疲弊は表裏一体、高度経済成長による産業構造の変化の結果であることがあきらかになるであろう。

シンポジウム当日には、長野県伊那地方から集団就職として集められて工業地帯へ赴き、仕送りで実家の家計を支え、その後は農村に嫁として帰るか、都市にとどまるかに分かれながらも、澤井余志郎氏とともに「生活を記録する会」をつづけた、かつての四日市東亜紡織泊工場の女性労働者たちの出席があった。佐藤藤三郎関連年表と澤井余志郎関連年表のあいだには、女性たちの移動年表が置かれるべきなのである。人口の移動の口火を切るのはむしろ女性労働力であり、女性たちがどこで次世代を生み育てるかによって一つの世代の移動が決定づけられるということが言えよう。これは、わたしたちが京都文教大学人間学研究所において長年、都市への人口集中の受け皿として建設されたニュータウンにかんする共同研究を行ってきたときにも感じていたことであった。

幸い、「生活を記録する会」の人々は自らの手で、高度経済成長と人口移動という日本列島の全体をおおう社会変動の記録を現在にいたるまでつづけ、2008年には『紡績女子工員生活記録集』Ⅱ（日本図書センター）五巻が刊行される予定である。前後してわたしたちもシンポジウム記録を中心に編集する論文集『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ—鶴見和子文庫との対話・未来への通信』（日本図書センター、2008年予定）を刊行する。この年表にかんしてもご批判、ご助言をお願いする次第である。

## 「つづけ読み、ならべ読み年表」

製作：西川 祐子

西暦	元号	佐藤藤三郎 関連年表	澤井余志郎 関連年表	主な社会変動
1945	昭和20	9歳。国民学校4年生。	16歳。浜松工業学校紡績科卒業。四日市陸軍製絨支廠に勤務。	8.15戦争終結の「玉音」放送。9.2降伏文書調印。マッカーサーの5大改革案。農地改革。
1946	昭和21		東亜紡織泊工場勤務。	東京裁判開廷。新憲法公布。食糧メーデー。
1947	昭和22	新教育制度による小学校6年生。		教育基本法、改正民法公布。古橋水泳世界新。
1948	昭和23	山元中学校1年生 無着成恭との出会い。ガリ版文集「きかんしゃ」発行、その後16号まで。		大韓民国、朝鮮民主主義共和国成立。
1949	昭和24	児童雑誌「少年少女の広場」など学級で購読。	労組文化部長としてサークル活動。泊工場へ伊那から新制中学校卒業生が集団就職。	中華人民共和国誕生。下山事件、三鷹事件、松川事件。
1950	昭和25	「きかんしゃ」2号掲載江口江一「母の死とその後」文部大臣賞。		朝鮮戦争勃発 警察予備隊設置。赤パージ。総評結成。『少年期』(光文社)ベストセラー。
1951	昭和26	山元中学校卒業式で答辞をよむ。上山農業高校入学。無着成恭編『山びこ学校』(青銅社)出版。劇団民芸「山びこ学校」。映画『山びこ学校』ロケ班来る。	『山びこ学校』を数冊同時購入し、工場の仲間たちと読む。	サンフランシスコ講和条約。日米安全保障条約。朝鮮休戦会議。「逆コース」国分一太郎「新しい綴方教室」。
1952	昭和27	今井正監督、八木保太郎脚本の映画『山びこ学校』	文学サークル編生活綴方文集「私の家」をガリ版印刷で発行。作文教育全国協議会に出席し、無着成恭、鶴見和子と会う。鶴見和子の泊工場訪問。	講和条約発効、占領期の終了。破防法成立。岐阜県中津川市で日本作文の会第1回作文教育全国協議会。
1953	昭和28	農林41号栽培、10アール当たり10俵収穫。無着成恭、山元中学校を去る。	文集「母の歴史」発行。会社が生活綴方阻止。	町村合併推進法公布。朝鮮休戦協定調印。テレビ放送開始。うたごえ運動盛ん。
1954	昭和29		組合が生活綴方反対。前々年の作文教育全国協議会出席を理由に東亜紡織を解雇される。『明日のある娘ら』(三一書房)木下順二・鶴見和子編『母の歴史』(河出書房)が泊工場の文集から多数収録。	第5福竜丸米水爆実験で被爆。原水爆禁止運動盛ん。米と相互防衛援助協定、米余剰農産物購入協定など調印。自衛隊発足。近江絹糸労組スト。
1955	昭和30	山形県立上山農業高校卒業。「小遣帳からみた4年間の学校生活」同人雑誌「百姓のノート」。	「生活を記録する会」発足。東亜紡織株式会社にたいし解雇無効提訴。鶴見和子の四日市訪問。	四日市他海軍燃料廠跡地払い下げと石油コンビナート進出の鳩山内閣閣議了解。神武景気。森永ヒ素ミルク事件。東京都に濃いスモッグ。家庭電化。55年体制。
1956	昭和31		磯野・木下・鶴見・日高・丸岡編『仲間のなかの恋愛』(河出書房)出版。	日本の国連加入。ソ連と国交回復。水俣病公式発見。日本住宅公団入居募集開始。
1957	昭和32	上山農業高校畜産専攻科卒業。卒業論文「わが村の構造分析と有畜農業経営について」山元村が上山市に合併。	広渡常敏と劇団三期会が生活を記録する会を題材に会とともに集団創作した戯曲「明日を紡ぐ娘たち」の公演。鶴見和子の四日市訪問。労働組合が「生活を記録する会」を分派活動とみなし、解散勧告。	「なべ底不況」。日本農民組合全国連合会結成。東京都人口世界最大。欧州経済共同体(E E C)。

西暦	元号	佐藤藤三郎 関連年表	澤井余志郎 関連年表	主な社会変動
1958	昭和33	青年学級主事。ホップ増反、しかし後に農薬中毒で断念。乳牛買い入れ酪農開始、しかし後に集乳問題で搾乳を断念し、牛の育成だけに。母の病以後、家族の病気づく。	工場の操業短縮による指名をうけた女性労働者たちに木下順二、日高六郎が支援。澤井裁判勝利判決、しかし復職せずの示談。労働組合協議会事務局員となる。「えんぴつグループ」をつくる。	買春防止法罰則規定施行。桑畑減反政策。東京タワー完工式。中国人民公社建設運動。アルジェリア独立戦争。皇太子婚約。四日市第1石油コンビナート建設。
1960	昭和35	『朝日ジャーナル』で無着成恭と『山びこ学校師弟対談』、『25才になりました』(百合出版)出版。	「万古焼争議」応援で逮捕・起訴され、名古屋高裁へ控訴、さらに最高裁へ上告。	政府の所得倍増計画。日米安保条約改定反対運動。浅沼社会党委員長暗殺。山谷ドヤ街の暴動。カラーテレビ。四日市公害最初の抗議が塩浜地区連合自治会によりなされる。異臭魚。
1961	昭和36	この年に結婚し村にとどまった5人の1人。後続は無し。	四日市ぜんそくの顕在化。澤井のカメラなどによる記録。	農業基本法公布 農村人口の流出と食糧自給率低下をまねく。釜ヶ崎暴動。全国学力テスト。
1962	昭和37		結婚。	全国総合開発計画。キューバ危機。経済急成長。
1963	昭和38		公害反対運動に参加。	四日市港では魚群消滅。磯津漁民中部電力火力発電所排水口封鎖。第2石油コンビナート建設。三池三川鉱で炭塵爆発。テレビアニメ「鉄腕アトム」。
1964	昭和39		12月最高裁の上告棄却で実刑3ヶ月確定。	東海道新幹線開通。東京オリンピック。
1965	昭和40	『“村”の腹立ち日記』(ダイヤモンド社)出版。	1月3日下伊那で生活を記録する会の第1回「5年目ごとのつどい(以下、つどいと略す)」。澤井、三重刑務所に1月11日から4月11日まで収監。公害記録運動開始。	四日市で公害認定制度発足。四日市海上保安部が工場の海水汚濁犯罪摘発。ベ平連デモ。「公害」「いざなぎ景気」。
1967	昭和42	蚕舎建設。	四日市公害ぜんそく訴訟。原告は磯津の公害病認定患者9名。被告は第1コンビナート6社。三重県公害センター設立。	公害対策基本法公布。農業人口が全就業者の20%を切る。美濃都政。都人口ドーナツ化。非核三原則。E C 成立。A S E A N 結成。
1968	昭和43		澤井、「公害を記録する会」文集『記録・公害』を発行。	大気汚染防止法公布。G N P 世界第2位。
1969	昭和44		四日市公害市民学校で澤井「四日市公害と運動の10年についての報告」。	熊本水俣病訴訟。学園闘争。全米反戦運動。
1970	昭和45	『根に挑む:佐藤藤三郎と金一治の日記』(たいまつ社)(金一治共著)、『実感的農業論』(家の光協会)、『底流からの証言:日本を考える』(筑摩書房)出版。乳牛、養蚕、稲作、ホップ栽培を行い、上山青年学級主事、連合青年団顧問。	第2回伊那のつどい。	大阪万国博覧会。全国にニュータウン建設。よど号事件。東京光化学スモッグ。ウーマンリブ第1回大会。沖縄コザ市暴動。三島由紀夫割腹自殺。
1971	昭和46		「四日市公害と戦う市民兵の会」磯津寺子屋。「公害を記録する会」(代表澤井)編「公害トマレ」ガリ版印刷で発行開始。	環境庁発足。公害問題深刻化。イタイイタイ病訴訟、新潟水俣病訴訟原告勝利。

西暦	元号	佐藤藤三郎 関連年表	澤井余志郎 関連年表	主な社会変動
1972	昭和47		四日市公害ぜんそく訴訟で原告 患者側勝訴判決。	田中角栄『日本列島改造論』、日 中共同声明。沖縄県発足。地価暴 騰。赤軍派事件。
1973	昭和48	『村からの視覚:狸村から物情騒 然の都会を望む』(ダイヤモンド 社)出版。		熊本水俣病訴訟原告に勝利判 決。変動相場制、円急騰。石油 ショック。
1974	昭和49	『中国を歩き日本を考える』(筑 摩書房)、『下からの創造論:新し い生きがいの探求』(昌平社)出 版(小林茂,森本哲郎共著)。朝倉 高文の山元小中学校校長赴任。	三重県公害防止条例改正。	経済成長率戦後初の低下。狂乱 物価。東京都に光化学スモッグ。 繭価暴落。
1975	昭和50	『まぼろしの村』(晩聲社)出版。 全5巻。父逝去、80歳。	第3回伊那のつどい。	地中海汚染防止条約採択。企業 倒産相次ぐ。
1976	昭和51		三重県公害センター→環境科学 センター。 映画『ほんとうの青空を』。	ロッキード事件。炭鉱閉鎖差。戦 後生まれ総人口の過半。住宅数 が世帯数を超す。
1977	昭和52	『農家のくらし:北国にいきる人 びと』(ポプラ社)出版。		外貨準備高史上最高。平均寿命 世界一。中国共産党4つの近代 化。漁業200カイリ時代。
1978	昭和53	『農協の再生をめざして』(たい まつ社)出版 山元地区人口減 最盛期の半分千人。43歳で部落 会の世話方。		日中平和条約。日米防衛協力の ための指針発表。成田空港開港。
1979	昭和54	『どろんこの青春:農村・狸森か ら若者へ』(ポプラ社)出版。	「公害トマレ」第100号。	第2次石油ショック。イラン革 命。ウォークマン発売。
1980	昭和55		第4回伊那のつどい。	日本の自動車生産台数世界一。 韓国光州事件。
1981	昭和56			校内暴力、家庭内暴力。
1982	昭和57		四日市公害判決10年を考る実行 委員会。	国連人間環境会議ナイロビ宣言 を採択。
1983	昭和58	朝倉高文編『山びこ学校』資料 集。		中国自動車道開通。パソコン普 及。
1984	昭和59		澤井余志郎編『くさい魚とぜん そくの証文』(はる書房・解説鶴 見和子)出版。	レーガンの「強いアメリカ」。ア フリカ飢餓深刻。臨時教育審議 会。
1985	昭和60		東亜紡織泊工場の閉鎖。第5回伊 那のつどい。	プラザ合意、円高時代。「いじめ」 問題。
1989	昭和64			天安門事件。ベルリンの壁崩壊。 昭和終焉。
1990	平成2		定年退職。第6回伊那のつどい。	イラクのクウェート侵略。
1991	平成3		妻利子逝去。	湾岸戦争。ソ連解体。日本経済パ ブル崩壊。
1992	平成4		四日市公害訴訟判決20年記念 『四日市公害記録写真集』澤井 「忘れないために」	環境と開発に関する国連会議。 都市銀行などに不良債権増加。
1993	平成5	『私が農業をやめない理由』(ダ イヤモンド社)出版	第7回伊那のつどい。名古屋大学 非常勤講師として「戦後社会教 育実践論」を講義。	細川連立内閣。米凶作。「規制緩 和」。

西暦	元号	佐藤藤三郎 関連年表	澤井余志郎 関連年表	主な社会変動
1994	平成6		澤井と「生活を記録する会」の女性たちに取材した広渡常敏脚本演出『真実の学校』東京演劇アンサンブル公演。	記録的猛暑、水不足。米不足の問題化。
1995	平成7		第8回伊那のつどい。龍谷大学非常勤講師。「公害・環境と人権」のゼミ・講義(1999年まで)。	村山首相の戦後50年談話。阪神大震災。「ボランティア元年」
1996	平成8	『村に、居る:新しい文化を創る』(ダイヤモンド社)出版。	田尻賞受賞。	高齢化社会白書。携帯電話普及。
1997	平成9	『三〇人の「大」百姓宣言:農の時代を創る主役たち』(ダイヤモンド社)刊行(共著) 『愉快的百姓:藤三郎の農業日記』(晩声社)出版。		不況長期化。地球温暖化対策京都議定書。 介護保険法公布。国内総生産減。
1998	平成10		第9回伊那のつどい。	失業率上昇。川崎公害訴訟原告勝利判決。
1999	平成11			新農業基本法。国旗国歌法、日米防衛関連法。ユーロ
2000	平成12	『山びこの村:だから私は農をやめない』(ダイヤモンド社)出版。	第10回伊那のつどい。	少年犯罪。「IT革命」「パラサイトシングル」
2001	平成13			米同時多発テロ、アフガン空爆、小泉内閣。
2002	平成14	『紡績女子工具生活記録集』出版 記念の集い(伊那)を取材し、澤井余志郎と会う。	第11回伊那のつどい。生活を記録する会編『紡績女子工具生活記録集』I(日本図書センター)全7巻出版。記念の集い。	住基ネット、「ゆとり教育」。
2004	平成16	『山びこ学校ものがたり:あの頃、こんな教育があった』(清流社)出版。山元小中学校に『山びこ学校』記念碑を建立。	第12回伊那のつどい。	自衛隊イラク派遣。プッシュ米大統領再選。
2005	平成17	『山びこ学校』記念碑に澤井余志郎と「生活を記録する会」の人々を案内。	佐藤藤三郎の案内で、伊那の女性たちと共に『山びこ学校』記念碑見学。	戦後60年。小泉自民党総選挙で圧勝。郵政民営化法案成立。地価14年連続下落。
2006	平成18		鶴見和子、広渡常敏、木下順二死去。「生活を記録する会」が『悼』号を発行。	「格差社会」
2007	平成19	72歳。京都文教大学人間学研究所公開シンポジウム「生活綴り方から『戦後』を考える」於京都国際交流会館で『山びこ学校』の地で『戦後』農業を生きる」を報告。	78歳。同左シンポジウムで「紡績工場から石油コンビナートまでを綴る」を報告。『「四日市公害」市民運動記録集』(日本図書センター)全4巻出版。	教育関連3法成立。